



“学びの森” = 支援員だより =



平成 30 年 1 月 9 日発行

明けましておめでとうございます。昨年は、多くの子どもたちに、学習をはじめ、身の整理や整頓、また、友達関係において、たくさんのご支援をいただきました。休憩する間もなく、次々と教室を歩きながら気付いたことに対応されている支援員さんの姿に出会います。子どもたちと支援員さんとの関係性・雰囲気はとてもよさそうです。本年度も引き続きお願いいたします。

学びの森と支援員さんとの研修も、予定通りに行われております。支援員さんとの懇談で、常に話題になっていることをあげてみたいと思います。

(1) 支援員さんから・「〇〇さんは、どういうお子さんなのでしょうね？」

子ども理解の難しさです。これは学校で働く職員の永遠の課題でしょうね。

教育は、「子ども理解に始まり、子ども理解に終わる」とさえ言われます。子どもは、いつも同じように考え、同じように行動しないですよね。その時々や状況によって変わり、普段なら何でもないことがちょっとした変化で・・・例えば、発熱や疲れ、友達とのトラブルなどで容易に行動が変化してしまいます。大人は“なぜだろう？”と子どもの行動・表れを理解しようとしてします。原因が分かれば確実な対応もできますが、分からないと“なぜだろう？”と困ってしまいます。

一方私たちは、子どもの調子がよく、やる気十分の時は、“どうして？なぜ？”とは考えませんね。でも、子ども理解は、時には、そのやる気を起こし、一生懸命取り組んでいる時の様子も観察して、“何がこれほどやる気を起こさせているのだろうか？”と見ることも必要なんですね。その時の、子どもの気持ちや健康状態、教室の雰囲気、課題の難易度・・・いろいろな条件が程よく整っていると思われれます。その条件探しも子ども理解につながります。

この両面の見方ができるとまた子ども理解も深まるでしょう。



(2) お医者さんと関係がある子どもさんには、またちょっと特別な理解が必要になってきます。

お医者さんから診断されたことは、一般的にその子の個性として理解します。



～例～

友だちや、しばしば大人とも関係がうまくとれないお子さんがいます・・・このようなお子さんの大人の気付きとして、“自分のしたことや言ったこと、またその時の状況や、なぜそうなったか、そのあたりがよく分かっていないみたい”というような印象をもちます。支援員さんにとって理解が難しいお子さんです。こうした子どもたちは、相手の立場にたって物事を考えることが苦手な、そういう個性をもったお子さんと受け止めてあげましょう。過剰と思える友だち関係、薄すぎるとも思える友だち関係を、適度な程よい関係にしたいものです。これには、時間（年数）と手間がかかります。手間をかけた分、子どもは学んで大きく改善されていきます。大人になると目立たなくなる人が大勢います。

不適切な言葉、行動を叱っただけでは子どもは変わりません。その言葉を言われた立場になったり、適切な言葉、行動を教えてあげたりして（考えよと言っても考えようがありません）実際、望ましい言葉、行動をロールプレイ（役割演技）すると効果があります。

編集・発行：“学びの森”

静岡県裾野市深良435番地
生涯学習センター2階
TEL：055-995-4903
FAX：055-995-4904

（2月の支援員だよりは「子ども理解～学習場面」です）